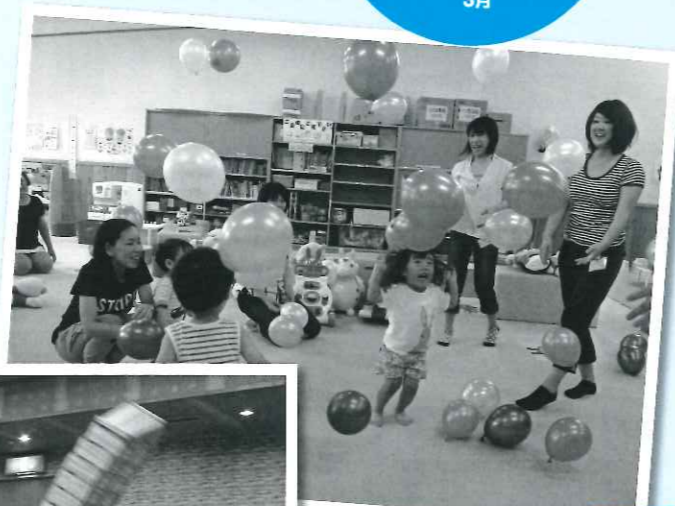


はばたき

habataki
第50号

発行日：2015年（平成27年）
3月



〔大船渡市協 つどいの広場〕



せえ〜のっ!!
〜あそんだ後の恒例〜
カプラくずし!



〔久慈市 あそびコンビニ〕



表紙の写真
〔いわて子どもあそび隊〕
今年度も、被災地の子どもたちと、
たくさん遊んでできました!

主な
内容

- ★全国児童館・児童クラブ大会参加報告
- ★いわて子どもあそび隊報告
- ★研修会報告・予定

研修会 報告

児童厚生2級認定科目を中心とした 研修にのべ700名以上が参加!!

〔平成27年度以降も認定科目研修を実施〕



〔救急法〕



〔ゲーム・運動あそび〕



〔表現活動〕

当協議会では、平成24年度から、3年以内で認定12科目が履修できるように計画的に実施しており、平成26年度は、計画数を上回る全6回、計6科目のべ8科目の研修会を実施しました。

実技科目では、国体公式ダンス「わんごまよーだい」、仙台から「きんにくーず」の渡邊代表を招いた運動遊び、身近な物でもちやを作る創作活動などをテーマに取り上げた他、理論科目では児童福祉論、地域福祉活動論等も学びました。

延べ700名以上の参加をいただく中、「もっと早く履修できる方法は

■平成27～29年度の児童厚生2級認定科目研修計画（予定）

H27年度	H28年度	H29年度
健全育成論	児童館論	安全指導・安全管理
個別援助活動	放課後児童クラブ論	児童の発達理論
発達障害のある児童への対応(仮) (旧 児童福祉援助技術総論)	発達障害のある児童への対応(仮) (旧 児童福祉援助技術総論)	地域福祉活動
ゲーム・運動あそび	集団援助活動	ゲーム・運動あそび
表現活動	ゲーム・運動あそび	救急法
	表現活動	

ないか」とのご相談をいただくことが多くあります。早期に資格を取得したいという関係職員の皆様の熱意に、できる限りお応えしたいところではありますが、平成27年度以降も3年サイクルでの研修実施を計画しておりますので、ご理解の程、お願いいたします。

会員施設の皆様へ

～子ども子育て支援新制度施行にあたり～

平成27年4月より、子ども子育て支援新制度がスタートします。制度施行等により、事業形態や施設の名称等に変更が生ずる場合は、事務局までご連絡をお願いいたします。

【事務局連絡先】岩手県社会福祉協議会 福祉経営支援部
TEL：019-601-4466
FAX：019-637-4255



5月の表彰式には出席できなかったため、同センターの泉澤力館長より、伝達いただきました。

おめでとうござります！
児童健全育成活動功労者顕彰事業
今年度の顕彰事業においては、当県より、盛岡市立山王児童・老人福祉センターの中道久子さんが表彰を受けられました。

参加報告

第14回全国児童館・児童クラブ大会
「じどうかんルネサンス子どもたちと共歩むこれからの道」

岩手県児童館・放課後児童クラブ協議会会長 平野 勝正

第14回
全国児童館・
児童クラブ大会

TOKYO

児童館の存在価値と役割

今回の大会は、国立総合児童センター「こどもの城」において、平成27年1月24日、25日に開催されました。この大会は、「こどもの城」が、開館（1985年11月）から30年を経て、この3月に閉鎖になることから、これまでの「こどもの城」の功績を皆でたたえ、ともに、今後の児童館のあり方を考え、児童館の再生、復活、復興の機会としようとするもので、そのことから「じどうかんルネサンス子どもたちと共歩むこれからの道」が今大会のテーマでした。

大会のオープニングは、「子どもたちからのサウンドメッセージ」として、こどもの合唱団の歌が、参加者でいっぱい青山劇場内に、はつらつと、元気よく、そして清らかに響きました。合唱団は、小学生だけでなく、かつて合唱団のメンバーであったOBやOG、そしてその子どもたちも一緒に、ステージで歌いました。まさに、一つの児童館の昔の子どもから今の子どもまでが一堂にそろう異年齢集団の大合唱でした。

合唱団の2人の小学生の進行により、開会セレモニーが始まりました。

最初にあいさつに立った公益財団法人児童育成協会藤田理事長は、「こどもの城は、大きな施設で人手も費用も多かかります。このキーノートが、今大会の分科会のテーマでもありました。午後は、これらのキーノートについて、それぞれの分科会で研究が行われました。また、これらの分科会のために、特別分科会「子どもの貧困を考える」（講師 阿部彩氏、国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部部長）と「こどもの城ツアール」の分科会があり、合わせて16の分科会で研究が行われました。

子どもの主体性を尊重

分科会での研究の後、閉会のセレモニーがありました。ステージは、品川区児童館の小学生女の子5人のバンド「にゃんころりん」の歌と演奏で始まり、徐々に同じ児童館のOB・OGの先輩たちも参加し、歌と演奏が盛り上がりしました。最後は、会場の参加者も一緒にオリジナルソング「じどうかん」を歌い、大会一日目を終えました。

今回の大会では、開会、閉会の時に、子どもたちの出演がありました。それは、大会のための子どもたちによるアトラクションというのではなく、「子どもたちが中心となっている児童館運営」ということの発信であり、「子どもの主体性」と子どもが主役を尊重した児童館活動のあり方を訴えるもので、大会のテーマ「児童館ルネサンス子どもたちと共歩むこれからの道」を象徴するものであると感じました。

わたしは岩手においても、このように子どもの自主性と主体性を尊重した企画、運営を一層推進し、子どもたちと共に歩む児童館、放課後児童クラブを発信していきたいと思っております。

す。これまで、こどもの城の運営の支援に使われたお金は、国の新しい子ども子育て支援制度に使用されることになり、補助金がなくなるので閉鎖することになりました。これは、全国の児童館の活動が主役になるので、ご健闘をお祈りします。」と開会のあいさつを述べられました。

続いて、一般財団法人児童健全育成推進財団鈴木理事長は、「今歌った子どもたちを見ると、彼らの人格が素晴らしいことがわかる。それがこども城なのです。」とこどもの城の果たした役割をたたえました。また、今大会のテーマを「じどうかんルネサンス」としたことについて、「ルネサンスとは、知りたい、見たい、わかりたいという人の欲望の爆発であり、精神原理運動です。児童館は、子どもの成長にとって大事なものであるということ、一般の人たちから十分な認識を得ているとは言い難い状況です。これからは、児童館の存在価値を、根拠を持って訴えていくことをやって行きましょう。」と、今後の児童館の取組みを力強く訴えられました。

来賓の厚生労働省雇用均等・児童家庭局育成環境課為石課長は、「地域に子育ての伝承がない中で、保護者は子育てを行うことになり、保護者が孤立しているという、今日の子育ての課題がある。子ども子育ての新しい制度が始まるが、地域の子育て支援

の中で、児童館は重要な役割を担っており、その役割を果たしていただきたい。」ということも述べられました。

14のキーノートと分科会

開会セレモニーの後、今回の大会の基調提起として児童館、放課後児童クラブを取り巻く環境から、本大会のキーノートとなる話題が、全国の児童館の職員から提起されました。

それらは、「子どもの参画」（一人ひとりの子どもを認め、職員主体の児童館運営から子ども主体の運営にしていくことが必要です。）、「ソーシャルワーク力」（子どもの支援を担当したとき、「貴方に関わってもらって良かった、ありがとう」と親にいわれたとき、ソーシャルワークの大切さを感じた。児童館には、児童館だからこそできるソーシャルワークの役割があるのです。）、「放課後の子ども」（子どもたちは、放課後も忙しく遊ぶ時間が無くなっています。児童館、放課後児童クラブで、豊かな放課後の活動の支援の充実が求められています。）、「中高生への対応力」（中高生の社会的自立を支援するために、児童館職員が積極的に関わりを持つための、力量が求められています。）、「多彩な協働」（子どもを真ん中において、地域のいろいろな人たちと一緒に、児童館が多

彩な協働を行うことが求められています。）、「児童館のエビデンス」（児童館が必要な証拠は何か。それは「子ども観」に基づいた児童館の存在価値を示すことです。）、「異世代をつなぐ」（人とのつながりが薄い。地域の文化の伝承活動など、異世代の交流ができる活動を取り入れることが求められています。）、「子どもの遊びの復権」（子ども遊びの原風景がなくなっています。空き地に子どもたちが集まり遊ぶような、子どもの遊ぶ権利を復権させることも児童館の仕事です。）、「マネジメント」（指定管理制度では、限られたひと、もの、かね、それに情報を加え、最大の効果をどのように発揮するかが問われています。）、「スタッフの次世代育成」（児童館を輝かすものにするために、この仕事が好きで、笑顔で取り組み、目標を達成し、周りから信頼される、そういう職員を育てましょう。）、「広報・発信力」（児童館は良い活動をたくさん行っています。そのことを外部の人に熱心に伝え、児童館の存在をわかってもらうことが大事です。）、「子どもの命を守る」（地震や津波等の自然災害や犯罪から子どもの命を守ることが、児童館にとっての大事な役割です。）、「子育ての主体性アップ」（母親の子育ての不安に対し、ピアカウンセリングの機会を提供するなど、支援の環境をファシリテートできるのが児童館の職員です。）、「じどうかんルネサンス」（0歳から18歳までの年代をつなぐことができるのは児童館の強みです。この強みを生かして、あらためて児童館のあり方を考え、役割を果たしていくことが求められています。）、の14のキーノートが提起されました。

いわて子どもあそび隊 活動報告

さつぽろのみなさんから 遊びのキットを 提供いただきました

- 訪問活動/28回(あそびにコンビニ、回、ピバ☆あそび場)2回
- おうえん隊(遊びのキット作り)3回
- 遊びのキット提供
- その他/説明会、さつぽろ青少年女性活動協会との意見交換会、振り返り会等



震災後から支援をいただいている公益財団法人さつぽろ青少年女性活動協会が運営する児童館等の子どもたちから、手づくりの遊びのキットを提供いただきました。

キットは、「げこげこガエル」と「アクセサリー」各200セット。希望があった被災地の施設の子どもたちに届けることができました！ さつぽろの児童館職員のみならず、平成26年度もキット提供だけでなく、岩手の被災地施設を直接訪問し、子どもたちへのあそびの支援を中心に活動いただいています。本場にありがとうございます。引き続き、岩手の子どもたちの応援を通じてつながりを持つことを楽しみにしていますので、今後ともよろしくお願いたします。

夏休みを利用して、さつぽろの子ども達が作ってくれました！



【発寒児童会館(札幌市)】



【西野第二小三二児童会館(札幌市)】



【たのはた放課後児童クラブ(田野畑村)】



【高浜児童会館(宮古市)】

提供を受けた施設からの声
子どもたちからは、「お母さんにプレゼントするんだ！」「いっぱい送ってくれたいわ」との感想がありました！職員も、創作活動をどうしようか悩んでいたのが、大変勉強になりました！